

「第4期北海道立美術館等作品収蔵計画」

(平成30年度策定) の中間評価

令和7年3月

道立美術館・道立釧路芸術館

# 目 次

1	背景	1
2	中間評価結果	
(1)	総括評価	1
①	作品収集に関する評価	
②	作品活用に関する評価	
(3)	館別評価	2
資料		
1	作品収集状況	8
2	作品収集の成果と課題	11
3	収蔵作品活用状況	22
4	作品活用の成果と課題	28

## 1 背景

北海道教育委員会では、平成30年度に、向こう10年間（令和元年度～令和10年度）における各美術館と釧路芸術館の作品収集等の長期的・総合的な基本の方針を示した「第4期北海道立美術館等作品収蔵計画」を策定した。

については、現計画が5年経過したことから、令和元年度からの作品収集、活用等の状況について中間点検を行う。

## 2 「第4期北海道立美術館等作品収蔵計画」（平成30年度策定）の中間評価

### (1) 総括評価

#### ① 作品収集に関する評価

第4期計画は、「コレクションの一層の充実と有効な活用を基本とし、将来の多様な発展への可能性にも目を向け、財政状況も勘案しながら、効率的に作品収集を行う」基本方針としている。

基本方針の1「北海道美術品取得基金による円滑かつ効率的な美術品の取得に努める」については、毎年度、基金を活用した作品購入ができ、安定的な収集に繋がっている。（6館13点）

一方、より充実した購入をするためには、令和6年度から開始した「北海道美術品購入サポーター制度」により、広く寄附募集を行うと同時に、道立美術館全体における複数年にわたる計画的な収集の中で、購入を検討する必要があると同時に、道立美術館全体における複数年にわたる計画的な収集の中で、購入を検討する必要がある。

基本方針の2「作品所蔵家等からの受贈・受託に当たっては、各館の収集方針に照らし、所蔵作品としての適性を判断の上、行う」については、自主企画の展覧会がきっかけの受贈や、地域ゆかりの作家など、関係者からの受贈及び受託によりコレクションの充実を図ることができた。道立美術館等としての活動を通じて関係者から信頼を深めてきたことなどが、成果につながっている。

基本方針の3「多様な芸術文化の動向にも目を向け、幅広い観点からすぐれた作品を収集する」については、収集に当たって作品の量的充実とコレクションの質的向上を図ってきたが、メディア芸術など時代状況を示す新しい分野の作品収集に向け、今後とも情報収集に努める必要がある。

本道の芸術文化振興のため設置された道立美術館が、社会教育機関と文化施設の双方の役割・機能を果たすためには、美術館活動の根幹である作品収集を今後も継続して進めて行く必要があり、作品の量的充実とコレクションとしての質的向上を図るため、引き続き美術に関する着実な調査研究に基づいた系統的、計画的な収集を行う必要がある。

また、美術館評価を通じて、コレクションの充実や活用の改善を図っていくことも必要である。

#### ② 作品活用に関する評価

作品の活用については、各館とも作品活用基本方針に基づき、館内外での積極的な活用に取り組んでいる。引き続き、「アートギャラリー北海道」などの取組を通じて、道立美術館のみならず道内市町村立・私立美術館等との連携をさらに密にして、相互の所蔵作品の貸借を円滑に進めるなど、館内外において所蔵品をより魅力的に紹介していくことが求められる。

教育普及活動については、平成24年度以降「出張アート教室」において収蔵作品を学校に持ち込み、鑑賞の手ほどきを行うなど、有効的に活用を行ってきたが、コロナ禍を経て、令和4年度以降、美術館と学校をオンラインで結び、学芸員が児童生徒を対象に、わかりやすく鑑賞の手ほどきや美術作品に関する説明を行う「オンラインアート教室」において活用している。

また、作品情報の提供については、令和3年度から北海道立美術館ポータルサイトを立ち上げ、道立美術館の情報を一元的に見ることができるようにしたほか、所蔵作品データベース構築によるインターネット上での公開等を行い、広く道民への作品鑑賞の機会と情報提供を進めた。

## (2) 館別評価

### ① 北海道立近代美術館

#### ア 作品の収集

今期は、北海道美術品取得基金による購入が5点、登録変更5点、及び受贈743点の計753点を収集した。

#### (ア) 成果

##### a 「北海道の美術」

岩橋英遠や片岡球子の代表作とともに、戦後の北海道を記録した掛川源一郎の写真、伊藤隆介の映像を用いたインスタレーション、藤戸康平によるアイヌ民族の伝統文様を用いた立体造形などを収集。今期に重点をおいた写真や映像の分野、優れた中堅、若手作家の作品を収集できた。

##### b 「日本の近代美術」

当館収蔵作家に関連の深い横山大観が第一回院展に出品した重要作のほか、第3期に引き続き友田多喜雄氏の所蔵作品の調査を進め、駒井哲郎や高山辰雄、棟方志功らの版画を受贈した。

##### c 「エコール・ド・パリ」「ガラス工芸」及び「現代の美術」

「エコール・ド・パリ」では友田多喜雄氏よりシャガールの版画、「ガラス工芸」では過去に当館で開催した展覧会を縁に、ガラス作家・家住利男より代表作でもある幅4m、奥行1.3mの大作を受贈。「現代の美術」においても、令和5年の「トリック×イリュージョン！」での当館学芸員の調査研究を機に、出品作家の福田美蘭より油彩2点を受贈した。

#### (イ) 課題

第4期方針のうち未収集の分野・作家の作品の収集が課題。そのために調査研究と情報収集を推進し、限られた収蔵スペースを勘案しつつ、購入と受贈の機会を最大限に活かす。なお、収集方針の今後については、「北海道立近代美術館リニューアル基本構想」（令和7年3月策定予定）に基づき、美術館が扱う領域が拡張している状況を勘案しながら、道立美術館全体のコレクションの在り方等を踏まえながら、検討を行う必要がある。

#### イ 作品の活用

#### (ア) 成果

収集方針を活かしたコレクション展により、様々な作品の鑑賞の機会を設けるとともに、他機関への貸出を通じて、館外でのコレクション鑑賞を可能とした。また、コロナ禍においてインターネットの活用が促進された社会状況を踏まえ、学校向けの鑑賞授業「オンラインアート教室」や展覧会紹介番組を制作し発信する「北海道リモート・ミュージアム」を実施した。

#### (イ) 課題

人件費、輸送費、物価の高騰等により、実作品を見せる機会の創出には困難が増しているが、リニューアル後の「目指す姿」の実現に向け、様々な活用の方法を検討する。

## ② 北海道立三岸好太郎美術館

### ア 作品の収集

#### (ア) 成果

##### a 「三岸好太郎作品」

購入では「花」(1932〔昭和7〕年、油彩・キャンバス) 1点、受贈では三岸好太郎「女の顔(絶筆)」(1934〔昭和9〕年、グワッシュ・紙) 1点、受託では三岸好太郎「南部の跳躍」(1932〔昭和7〕年、水彩、コンテ・紙) 1点、計3点を収集することができた。「花」は作風の展開を示す貴重な作品にもかかわらず提示額が市場価格を下回る出物であり基金でタイミングよく購入できたのは大きな成果であった。「女の顔(絶筆)」は、好太郎が客死した際、旅館の部屋に残されていた水彩の絶筆という極めて希少価値の高い作品であり、特別展「貝殻旅行」の調査により発見し、遺族からの寄贈に結びつけることができた。「南部の跳躍」は、所蔵品展の特集展示の企画から、受託に結びついたものであり、展覧会企画と受贈・受託による収集をうまく連動させることができた。

#### (イ) 課題

作品保存の観点にも配慮しつつ、三岸好太郎の画業を通覧するための展示には、画業の顕彰にふさわしい質の作品及び十分な量(作品数)が必要だが、三岸の画業各期における作品の十分な収集には至っていない。今後も引き続き、それら対象作品の情報を集め、収集に努めるものとし、特に最晩年に関わる重要作品を重点的に収集する。評価額が高額となるため、道立美術館全体における複数年にわたる計画的な収集の中で、購入を検討する必要がある。また、受託制度の積極的な活用にも引き続き努める。

### イ 作品の活用

#### (ア) 成果

所蔵品展の活用割合は5年間の平均が105.9%であった。第3期の9年間の平均が106.9%でほぼ同程度で、数的には全作品を活用できている。移動美術展への出品は、コロナ禍の期間で実施できなかった時期が含まれており、第3期より減ったが、オンラインアート教室では、自主開催の2021年を含め、3校に対し24点を活用できた。また、「北海道リモートミュージアム」では、美術館と三岸好太郎作品について紹介し、作家作品について認知度を高めることができた。作品貸し出しは道内外の美術館に5年間で155点(ほかに寄託作品2点)の貸出実績(1年平均31点)となり、第3期の9年間で169点(年平均16.9点)を上回った。連携協定を結んでいる一宮市三岸節子記念美術館や北菓楼に加え、当館の特色のひとつである「おばけのマール」の関係で国立アイヌ民族博物館で展示することが出来たのは、展示活用施設の幅の広がりという点で、ひとつの成果であった。

#### (イ) 課題

多様な観点からのテーマ設定による所蔵品展を開催しているが、まとまった点数の貸出しや、特定の代表作の貸出しの要望には、対応に困難が生じることがある。そのため、来館者の期待に応える館内展示の充実と、館外展による三岸作品の鑑賞機会の増大の意義とのバランスに配慮しながら、作品の活用を考えていく必要がある。なお、館内外での作品活用及び鑑賞機会を高め、作品保存の観点からも、更に十分な量と質の所蔵品確保が望まれる。作品情報の効果的な提供については、所蔵品図録の作成頒布、館のホームページやインターネット上での所蔵品検索と作品画像の公開点数を増加させることが検討課題である。

### ③ 北海道立旭川美術館

#### ア 作品の収集

「道北の美術」40点及び「木の造形」18点、計58点の作品を収集し、コレクションの幅が広がった。

##### (ア) 成果

###### a 「道北の美術」

関兵衛（油彩）ら旭川美術史の重要作家、難波田龍起（油彩、水彩、版画）ら旭川ゆかりで現代日本をリードしてきた作家の作品を、作家やその遺族、ボランティア常磐会からの受贈により収集し、また、道内美術界を中心に活躍してきた荒井善則（版画）の作品を展覧会開催を契機として作家本人から受贈するなど、各作家の収蔵作品を充実させることができた。

###### b 「木の造形」

道北ゆかりの砂澤ビッキ（彫刻、水彩・素描）、1970年代に木彫で高く評価された小島廣志（彫刻、版画）の貴重な作品を、両氏と交流のあった地元作家からの受贈により収集し、彫刻分野のコレクションを充実させることができた。

令和4年度（2022年度）、重要無形文化財保持者、いわゆる人間国宝である村山明、須田賢司、須田賢司の父で戦後工芸界の復興に貢献した須田桑翠（いずれも工芸）の計4点を開館40周年に合わせて購入した。また、須田桑翠、賢司の作品計4点を作家遺族や所蔵家、ボランティア常磐会から受贈し、伝統工芸の系譜に連なるコレクションの充実に資することができた。

##### (イ) 課題

未収蔵作家、現在活躍中の中堅・若手作家らの作品収集は十分とはいえず、継続的に情報収集を行い、体系的なコレクション形成に努める必要がある。

#### イ 作品の活用

##### (ア) 成果

所蔵品展及び収蔵品を中心とした展覧会を24回開催したほか、アートギャラリー北海道事業の一環として剣淵町絵本の館との共催により収蔵品を館外で展示することができた。

また、上野憲男、羽生輝、神田一明、砂澤ビッキなど、北海道ゆかりの著名作家の展覧会が道内で相次いで企画、開催され、当館収蔵品を各作家の業績を語る重要な作品として貸し出し、活用に供することができた。

今期、展示・貸出により多くの収蔵品を活用することができた。

##### (イ) 課題

移動や保管が困難な重量や体積の大きい彫刻作品については、保管状況と連動させながら展示・貸出を計画する必要がある。

工芸作品については、美的価値に加えて実用的価値にも触れてもらうため、作品の安全性を確保しながら、一般来館者の理解に資するための教育普及事業や、若手作家、研究者の活動に資するための特別観覧など、より多様な活用方法を検討する必要がある。

#### ④ 北海道立函館美術館

##### ア 作品の収集

101点の作品を収集することができた。

なかでも、研究者から高い評価を得ている蠣崎波響の新出作品（画卷）や日本を代表する書家である中野北溟の作品を複数受贈できたこと、歴史的評価の高い小玉貞良の江差屏風を購入できたことにより、当館のコレクションの一層の充実が図られた。

##### （ア）成果

###### a 「道南の美術」

地域の所蔵者やアートギャラリー北海道の連携施設との連携により、美術史的にも貴重な蠣崎波響の新出作品を受贈し、当館の波響コレクションに一層のまとまりが生まれた。

また、函館市の有形文化財である小玉貞良の江差屏風は、「道南の美術」コレクションの中核となることが期待できる。

###### b 「現代美術」

現代分野の作品は市場に流通する作品が対象となり、定期的に作品購入が行えない状況下では収集が困難であった。

###### c 「書と東洋美術」

日本を代表する書家である北海道書道界の指導的存在でもある中野北溟や道南の書壇形成に大きく貢献した千葉軒岳など、本道・道南ゆかりのある書家の秀作を数多く収集できたことにより、当館の近代詩文書のコレクションの一層の充実を図ることができた。

##### （イ）課題

###### a 「道南の美術」

幕末から明治にかけての重要作家である横山松三郎や道内で活躍した外山欽平など、収集が必須でありながら実現していない作家・作品があることから、引き続き情報収集に努める。

###### b 「現代美術」

既に収蔵されている作品に関しては、作品の水準は申し分ないものの、点数が45点と少なく、「量の確保」という観点では、引き続き課題となっている。

今後も引き続き情報収集に努め、購入機会が得られる際には、速やかに対応できるよう準備をする。

###### c 「書と東洋美術」

体系的なコレクションの形成を目指し、引き続き、書の表現分野のバランスに配慮しながら作品を収集していくとともに、未収集の北海道の書家の秀作についても収集に努める。

##### イ 作品の活用

##### （ア）成果

道内外の美術館等との連携を図ることにより、当館のコレクションの認知度を高めることができた。

また、平成28年度に開発した「道南版アート・カード」については、8校96セットの貸出実績を有し、教育現場での当館コレクションの鑑賞学習の充実に貢献することができた。

また、当該ツールの活用によって、来館が困難な障がいのある子供達にも、当館コレクションに親しむ機会をつくることができた。

広域の学校の児童生徒を対象としたオンラインアート教室（T-Baseを活用した事業を含む）については、開始当初の令和4年度は実施希望校はなかったものの、令和5年度には実施校が6校となり、当館所蔵作品を活用しながら、子供達に鑑賞の指導を行うことなどを介して、文化芸術に触れる機会を提供することができた。

##### （イ）課題

道南地域では、美術館以外にも博物館や寺社などで文化財を所蔵・展示しているケースが多く、今後もこうした施設との連携をさらに深め、当館のコレクションの一層の活用促進につなげていく必要がある。

また、展示室や当館で行うワークショップ以外の場所でのコレクションの柔軟な活用についても、さらに検討を進めていくとともに、「道南版アート・カード」や「オンラインアート教室」の認知度を高め、より多くの学校現場で活用される機会を創出できるよう努めていく必要がある。

## ⑤ 北海道立帯広美術館

### ア 作品の収集

#### (ア) 成果

##### a 「道東の美術」

「池田緑展」、「香川軍男・景川弘道と北見の美術展」の開催を契機に、13点の作品を受贈することができた。

また、道東ゆかりの作家である池田良二、富谷智の作品9点を収集することができた。

##### b 「プリントアート」

版画家・荒井善則氏が収集してきたコレクションを一括で寄贈いただき、国際的にも高い評価を得ている版画家たちの作品23点の作品を収集することができた。

#### (イ) 課題

「道東の美術」については、未収蔵の作家も多いため、明治以降の道東の美術の系統的な収集や、現在活躍中の中堅・若手作家なども視野に入れた収集を、調査・研究に基づき進めていく必要がある。

「プリントアート」では、戦後から今日まで多様な展開を見せている国内外のプリントアートを対象に、版画とデザインという領域に限定されることなく収集を図り、各分野の体系的なコレクションの構築を進めていく必要がある。

「西洋の美術」では、収集できていない状況にあり、収集の実現に向けて各方面からの情報収集に努めていく。

### イ 作品の活用

#### (ア) 成果

コレクション・ギャラリーにおいて、毎年4本、所蔵作品を用いて美術史的な切り口によるテーマ展や教育普及的な企画展を開催し、所蔵作品の積極的な活用を図ることができたほか、主展示室において他館所蔵作品等と関連付けた展示を行い、新しい視点での鑑賞機会を提供することができた。

また、道内美術館へ94点の作品の貸出しをすることができた。

#### (イ) 課題

主展示室の企画にあたっては、未収蔵の作家の作品や十勝を拠点とする多くの現代作家たちの作品なども視野に入れ、新鮮さと広がりを加えていくことが求められる。また、既収蔵作品についても関連作品や資料の調査を深め、活用の幅を広げていく。

## ⑥ 北海道立釧路芸術館

### ア 作品の収集

#### (ア) 成果

収集は、「映像芸術」152点、「自然と芸術」0点、「地域と芸術」20点、うち寄贈171点、購入1点(20点組)、合計172点が増加し、作品総数は328点(組作品を個別に数えた場合:920点)となった。とくに「映像芸術」の写真においては、まとまったコレクションの寄贈と購入により、日本の現代写真が質量ともに充実した。「地域と芸術」においては、これまで未収蔵だった分野であるデザインの作品を収蔵することでコレクションの幅を広げることができた。

#### (イ) 課題

##### a 「映像芸術」

写真については、第4期収蔵計画にあげた「国内外の優れた作品」の収集に大きな成果があったが、作家に偏りがあり、「系統的」な収集には課題が残る。また、その他の映像メディアによる作品については収集には至らず、今後も引き続き調査と課題の整理を進める必要がある。

##### b 「自然と芸術」

第3期から引き続き、今期も未だ収蔵に結びつかず、点数では全体の1割に満たない。北海道や国内にとどまらず、海外にも視野を広げながら、広く表現の多様性を示す現代の作品について調査を進めていきたい。

##### c 「地域と芸術」

これまで未収蔵だった分野であるデザインが加わり成果があったが、他にも工芸や写真以外の映像メディアなど、未収蔵の分野がある。釧路・根室地域ゆかりで、なおかつ、当館の収蔵方針に関わる未収蔵の分野も調査を行い、多分野の優れた作品を収集していきたい。

### イ 作品の活用

#### (ア) 成果

各年度、親しみやすく身近なテーマを設けてコレクション展を開催し、さまざまな角度から収蔵作品の魅力を伝えた。同時に、新収蔵品展や地域ゆかりの作家を個展形式で開催、観覧無料で公開するなど、活用方法の工夫も行った。また、映像芸術(写真)や地域ゆかりの絵画などを道東地域の公立美術館等に、現代の日本画など当館の代表的コレクションを道立他館に貸出した。令和1～4年度は出張アート教室を実施、道東地域の学校で作品展示と授業を行った。令和5年度はオンラインアート教室を実施、道内4校に対し鑑賞授業を行った。リモート・ミュージアムのコンテンツ制作とSNS等による情報発信により、コレクションの魅力を広範に伝えた。

#### (イ) 課題

令和1～3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館や、関連事業等の中止が重なり、来館者数は大きく落ち込んだが、これと前後してリモート・ミュージアムによる展覧会や作品紹介の動画配信、出張アート教室からオンラインアート教室への移行等があり、収蔵作品活用のあり方が変化した。今後は、オンラインのメリットを生かした作品活用の方途を研究・実践し、より有効な教育活動や情報提供を実施していきたい。

## 作品収集状況

## 分野別作品収集状況

令和6年3月末現在

区 分		近代美術館	三岸美術館	旭川美術館	函館美術館	帯広美術館	釧路芸術館	計
平成30年度末所蔵数		5,316	256	700	1,875	808	156	9,111
R1年度 ～ R5年度	油彩	24	1	9	17	1	4	56
	日本画	11	0	0	4	0	0	15
	東洋画	0	0	0	0	0	0	0
	水彩・素描	31	1	8	41	0	3	84
	版画	504	0	26	2	41	10	583
	彫刻	2	0	2	0	1	1	6
	工芸	15	0	13	4	0	0	32
	書	0	0	0	32	0	0	32
	デザイン	0	0	0	0	0	2	2
	写真	166	0	0	1	2	152	321
小計	753	2	58	101	45	172	1,131	
合 計		6,069	258	758	1,976	853	328	10,242

## 基金購入による分野別作品収集状況( の内数)

令和6年3月末現在

区 分		近代美術館	三岸美術館	旭川美術館	函館美術館	帯広美術館	釧路芸術館	計
平成30年度末所蔵数		227	1	85	170	130	40	653
R1年度 ～ R5年度	油彩	0	1	0	0	0	0	1
	日本画	1	0	0	1	0	0	2
	東洋画	0	0	0	0	0	0	0
	水彩・素描	0	0	0	0	0	0	0
	版画	0	0	0	0	0	0	0
	彫刻	2	0	0	0	1	0	3
	工芸	2	0	4	0	0	0	6
	書	0	0	0	0	0	0	0
	デザイン	0	0	0	0	0	0	0
	写真	0	0	0	0	0	1	1
小計	5	1	4	1	1	1	13	
合 計		232	2	89	171	131	41	666

## 地域別作品収集状況

令和6年3月末現在

区 分		近代美術館	三岸美術館	旭川美術館	函館美術館	帯広美術館	釧路芸術館	計
平成30年度末所蔵数		5,316	256	700	1,875	808	156	9,111
R1年度 ～ R5年度	北海道	618	2	47	98	22	20	807
	日本	80	0	11	1	23	152	267
	海外	55	0	0	2	0	0	57
	小計	753	2	58	101	45	172	1,131
合 計		6,069	258	758	1,976	853	328	10,242

資料1

特色別作品収集状況

区分	近代美術館							三岸美術館			旭川美術館				函館美術館					帯広美術館					釧路芸術館					合計	累計	
	北海道の美術	日本近代の美術	エコール・ド・パリ	ガラス工芸	現代の美術	その他	小計	三岸好太郎作品	その他	小計	道北の美術	木の造形	その他	小計	道南の美術	現代美術	書と東洋美術	その他	小計	道東の美術	プリントアート	西洋の美術	その他	小計	映像芸術	自然と芸術	地域と芸術	その他	小計			
平成30年度末所蔵数	2,480	427	305	1,257	58	789	5,316	255	1	256	352	250	98	700	797	45	869	164	1,875	293	489	14	12	808	51	30	75	0	156	9,111	9,111	
年度別収集数	R1	46	24	1	1	0	5	77	1	0	1	18	3	0	21	27	0	1	0	28	8	0	0	8	0	0	10	0	10	145	9,256	
	R2	263	4	0	0	0	0	267	0	0	0	2	4	0	6	27	0	4	1	32	9	0	0	9	149	0	0	0	149	463	9,719	
	R3	121	50	2	1	0	47	221	1	0	1	18	1	0	19	5	0	8	0	13	1	23	0	0	24	0	0	2	0	2	280	9,999
	R4	27	0	0	0	0	0	27	0	0	0	2	9	0	11	5	0	19	0	24	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7	69	10,068
	R5	159	0	0	0	2	0	161	0	0	0	0	1	0	1	4	0	0	0	4	4	0	0	4	3	0	1	0	4	174	10,242	
小計	616	78	3	2	2	52	753	2	0	2	40	18	0	58	68	0	32	1	101	22	23	0	0	45	152	0	20	0	172	1,131		
合計	3,096	505	308	1,259	60	841	6,069	257	1	258	392	268	98	758	865	45	901	165	1,976	315	512	14	12	853	203	30	95	0	328	10,242		

基金購入による特色別作品収集状況(の内数)

区分	近代美術館							三岸美術館			旭川美術館				函館美術館					帯広美術館					釧路芸術館					合計	累計
	北海道の美術	日本近代の美術	エコール・ド・パリ	ガラス工芸	現代の美術	その他	小計	三岸好太郎作品	その他	小計	道北の美術	木の造形	その他	小計	道南の美術	現代美術	書と東洋美術	その他	小計	道東の美術	プリントアート	西洋の美術	その他	小計	映像芸術	自然と芸術	地域と芸術	その他	小計		
平成30年度末所蔵数	137	8	14	64	3	1	227	1	0	1	15	70	0	85	170	0	0	0	170	17	108	5	0	130	14	14	12	0	40	653	653
年度別収集数	R1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	654
	R2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	656
	R3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	658
	R4	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	664
	R5	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	666
小計	5	0	0	0	0	0	5	1	0	1	0	4	0	4	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	13	
合計	142	8	14	64	3	1	232	2	0	2	15	74	0	89	171	0	0	0	171	18	108	5	0	131	15	14	12	0	41	666	

## 資料1

## 分野・特色別作品収集状況

令和6年3月末現在

区 分	近代美術館							三岸美術館			旭川美術館				函館美術館					帯広美術館					釧路芸術館					合計
	北海道の美術	日本近代の美術	エコール・ド・パリ	ガラス工芸	現代の美術	その他	小計	三岸好太郎作品	その他	小計	道北の美術	木の造形	その他	小計	道南の美術	現代美術	書と東洋美術	その他	小計	道東の美術	プリントアート	西洋の美術	その他	小計	映像芸術	自然と芸術	地域と芸術	その他	小計	
油彩	709	53	50	0	17	3	832	87	1	88	130	3	42	175	384	12	0	23	419	81	0	9	1	91	0	15	39	0	54	1,659
日本画	231	55	0	0	0	1	287	0	0	0	16	0	2	18	36	0	0	18	54	7	0	0	3	10	0	6	9	0	15	384
東洋画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
水彩・素描	247	23	92	0	11	4	377	160	0	160	151	19	4	174	73	0	0	8	81	21	0	5	7	33	0	1	6	0	7	832
版画	1,037	322	164	0	23	740	2,286	10	0	10	80	14	47	141	346	25	0	64	435	178	217	0	0	395	0	4	20	0	24	3,291
彫刻	89	10	1	0	8	4	112	0	0	0	11	129	3	143	17	1	0	24	42	17	0	0	1	18	0	4	16	0	20	335
工芸	335	42	1	1,259	1	89	1,727	0	0	0	3	102	0	105	6	5	132	27	170	1	0	0	0	1	0	0	3	0	3	2,006
書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	740	0	741	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	741
デザイン	231	0	0	0	0	0	231	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	255	0	0	255	0	0	2	0	2	488
写真	216	1	0	0	0	0	217	0	0	0	1	1	0	2	3	1	0	1	5	3	47	0	0	50	203	0	0	0	203	477
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	3,095	506	308	1,259	60	841	6,069	257	1	258	392	268	98	758	865	45	901	165	1,976	308	519	14	12	853	203	30	95	0	328	10,242

## 資料 2

## 作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立近代美術館

項 目	1 北海道の美術
計 画 内 容	北海道の美術の優れた作品、重要作家や未収蔵作家の作品、収蔵数の少ない分野の作品を体系的に収集するとともに、これらに関連する作品を収集する。
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	616点 (購入5点、受贈606点、管理換1点、登録変更4点)
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度) ※作者名「作品名」(制作年)	岩橋英遠「明治」(1950年)【購入】 片岡球子「面構 一休さま」(2000年) 伊藤隆介「こんなことは無かった」(2012年/2022年)【購入】 藤戸康平「Singing of the Needle」(2021年)【購入】 掛川源一郎「開拓地の兄妹」(1957年)
主 な 成 果	岩橋英遠や片岡球子らの代表作の他、これまで未収蔵の若手・中堅作家の優れた作品として、藤戸康平によるアイヌ民族の伝統文様を用いた立体造形や、伊藤隆介の映像を用いたインスタレーションを新たに収蔵した。また、収蔵の少ない分野の作品として、戦後の北海道の自然や社会を記録した掛川源一郎の写真156点の受贈が特筆に値する。
残された課題と今後の方向性	収蔵数の少ない分野や、若手・未収蔵作家の作品について、北海道美術の動向を視野に入れながら、収集を進める。

項 目	2 日本近代の美術
計 画 内 容	北海道美術の動向及びコレクションと関連する、優れた作品を機会を捉えて収集する。
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	78点 (購入0点、受贈77点、管理換0点、登録変更1点)
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度) ※作者名「作品名」(制作年)	横山大観「秋思」(1898年) 駒井哲郎「丸山薫詩集 蟻のいる顔」(1973年) 高山辰雄「唐詩選リトグラフ集」(1978年) 野見山暁治「ぼくの切れっぱし」(2000年)
主 な 成 果	本道ゆかりの日本画家とも関連が深い近代日本画の巨匠・横山大観の重要作品を収集できた。この他、第3期に引き続き友田多喜雄氏より、棟方志功や駒井哲郎などの多数の秀作版画を受贈した。
残された課題と今後の方向性	引き続き、北海道美術と関連する作家、作品を調査し、収蔵作品とのつながりを考慮しながら、機会をとらえて収集を行う。

※購入とは、道の取得基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

## 資料 2

## 作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立近代美術館

項 目	3 エコール・ド・パリ
計 画 内 容	未収蔵作家や収蔵数の少ない作家の作品を収集するとともに、関連作家の作品を収集する。
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	3点 (購入0点、受贈3点、管理換0点)
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度) ※作者名「作品名」(制作年)	マルク・シャガール『『死せる魂』ソバケーヴィチ』(1925年)、『『死せる魂』書類を探すプリューシキン』(1925年)、『シャガール・リトグラフ第2巻』(1963年)
主 な 成 果	平成30年から当館学芸員が調査を開始し、第3期収蔵計画の後半から今期にかけて友田多喜雄氏より名作版画コレクションを受贈した。これらの作品の中には、ルオーの代表作「ミセレーレ」やシャガールの版画の中では珍しい色彩木版画集「ポエム」など、エコール・ド・パリ関連作家の貴重な版画が多数含まれており、コレクションの質的向上と量的拡充に資する特筆すべき成果となった。
残された課題と今後の方向性	引き続き、モディリアーニの油彩のような代表作家の重要作品、および1920年代前後のエコール・ド・パリの未収蔵作家や収蔵数の少ない作家の作品収集が課題である。受贈のみでの課題解決は望めないため、購入を目指して情報収集と調査研究を継続する。

項 目	4 ガラス工芸
計 画 内 容	アール・ヌーヴォー期、アール・デコ期以降の海外の近現代ガラス及び現代日本のガラス工芸を収集する。
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	2点 (購入0点、受贈2点、管理換0点)
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度) ※作者名「作品名」(制作年)	家住利男「表面-000995」(1995年) 米原真司「吉兆 その2」(2002年)
主 な 成 果	現代ガラス界の第一線で活躍する家住利男より、代表作である幅4m、奥行1.3mの大作を受贈したことが、今期最大の成果。また、道内のガラス作家・米原真司からも代表作1点を受贈した。これらの収集により、日本近現代ガラスのコレクションの充実をはかることができた。なお、作品はいずれも過去に当館で開催されたガラス展の出品作であり、今回の受贈は館が作家との信頼関係を築いてきた成果である。
残された課題と今後の方向性	アール・ヌーヴォー期とアール・デコ期以降の海外のガラスについては、今期の収集が実現しなかった。優れた作品の収集機会を逸さないよう、引き続き情報収集と調査研究に努める。

※購入とは、道の取得基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

## 資料 2

## 作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立近代美術館

項 目	5 現代の美術
計 画 内 容	北海道美術の動向及びコレクションと関連する、斬新なコンセプトや技法による多様な分野の作品を機会を捉えて収集する。
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	2点 (購入0点、受贈2点、管理換0点)
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度) ※作者名「作品名」(制作年)	福田美蘭「婦人像」(2000年)、「F100号の肖像画」(2000年)
主 な 成 果	令和5年度開催の「トリック×イリュージョン！」展における当館学芸員の調査研究をきっかけに、同展出品の未収蔵作家である福田美蘭より、モーター等の仕掛けによって人物の目が時折動く肖像画など、斬新なコンセプトの油彩2点を受贈した。
残された課題と今後の方向性	北海道美術の動向やコレクションに関連した作品については、本項目での成果として挙げていないが、「1 北海道の美術」の項目で記した、道内の中堅作家である伊藤隆介の映像を用いた作品1点の収集が該当する。今後も道内美術の動向に目を配りながら、コレクションとの関連性を踏まえ、機会をとらえて作品収集を行う。

※購入とは、道の取得基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

## 資料 2

## 作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立三岸好太郎美術館

項 目	1 三岸好太郎作品	
計 画 内 容	三岸好太郎の代表作をはじめ、画業の初期から晩年までの優れた作品を収集する。特に、最晩年に関わる作品を収集する。 また、寄託制度の積極的な活用に努め、実質的・効率的に収集の効果を上げる。 コレクションの中で比較的層の薄かった晩年の作品を中心に収集に努めてきたが、質量ともにいまだ不十分であり、収集可能な作品が明らかになった場合、その都度収集する。	
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	2点 (購入 1点、受贈 1点、管理換 点)	※受託 1点
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度) ※作者名「作品名」(制作年)	三岸好太郎「花」1932(昭和7)年【購入】 三岸好太郎「女の顔(絶筆)」 1934(昭和9)年	三岸好太郎 「南部の跳躍」 1932(昭和7)年
主 な 成 果	「花」は作風の展開を示す貴重な作品にもかかわらず、タイミングよく購入できたのは大きな成果であった。「女の顔(絶筆)」は、好太郎が客死した際、旅館の部屋に残されていた水彩の絶筆という極めて希少価値の高い作品であり、特別展「貝殻旅行」の調査により発見し、遺族からの寄贈に結びつけることが出来た。「南部の跳躍」は、所蔵品展の特集展示の企画から、受託に結びついたものであり、展覧会企画と受贈・受託による収集をうまく連動させることができた。	
残された課題と今後の方向性	作品保存の観点にも配慮しつつ、三岸好太郎の画業を通覧するための展示には、画業の顕彰にふさわしい質の作品及び十分な量(作品数)が必要だが、そうした観点では三岸の画業各期における作品の十分な収集には至っていない。 今後も引き続き、それら対象作品の情報を集め、収集に努めるものとし、特に最晩年に関わる重要作品を重点的に収集する。評価額が高額となるため、道立美術館全体における複数年にわたる計画的な収集の中で、購入を検討する必要がある。 また、受託制度の積極的な活用にも引き続き努める。	

※購入とは、道の取得基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

## 資料 2

## 作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立旭川美術館

項 目	1 道北の美術
計 画 内 容	道北ゆかりの重要な作家や未収蔵の作家を中心に、特に戦後間もない北海道アンデパンダン以後の作家の作品や、従来主な対象としてきた絵画・彫刻・版画だけでなく写真やデザイン等の分野についても調査を深め、系統的な収集を行う。
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	40点 (購入0点、受贈40点、管理換0点)
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度) ※作者名「作品名」(制作年)	遠藤享「SPACE & SPACE / NATURE-0605」(2006年) R 1年度収蔵 百瀬寿「NE. Blue to Black」(2015年) R 1年度収蔵 関兵衛「冬」(1939年) R 2年度収蔵 村山陽一「岡の見える風景」(1952年) R 3年度収蔵 難波田龍起「(無題)」(1995年) R 3年度収蔵
主 な 成 果	関兵衛、村山陽一、佐藤進、朝倉力男ら旭川美術史上の重要な作家の作品、難波田龍起、遠藤享、百瀬寿ら旭川ゆかりで現代日本を代表する作家の作品を、作家や遺族、コレクター、当館ボランティアからの受贈により収蔵し、各作家の収蔵作品を充実させることができた。
残された課題と今後の方向性	引き続き、道北ゆかりの重要な作家、未収蔵の作家の作品や、写真・デザイン等の分野における作家の作品の調査と系統的な収集を進めるよう努める。

項 目	2 木の造形
計 画 内 容	木を素材とした近現代の彫刻や工芸等について、重要な作家や未収蔵の作家の作品を中心に収集する。また、現代の美術動向との関連性も視野に入れながら、若手・中堅の作家についても調査を深め、幅広い収集を行う。
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	18点 (購入4点、受贈14点、管理換0点)
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度) ※作者名「作品名」(制作年)	砂澤ビッキ「焔面」(1975年) R 1年度収蔵 小島廣志「八月」(1981年) R 2年度収蔵 村山明「櫻緋拭漆舟形盛器」(2017年) R 4年度収蔵【購入】 須田賢司「栃黒柿拭漆箱『籬』」(1995年) R 4年度収蔵【購入】 須田桑翠「桐八角筥」(1972年) R 4年度収蔵【購入】
主 な 成 果	彫刻では、「道北の美術」にもまたがる砂澤ビッキ、平櫛田中賞受賞作家である小島廣志といった重要な作家の作品を、両氏と交流のあった地元作家からの寄贈により収蔵することができた。工芸では、これまで未収蔵だった村山明の作品を購入するとともに、須田賢司、須田桑翠の作品を購入、及び遺族やコレクター、当館ボランティアからの受贈により新たに収蔵し、伝統木工芸の系譜に連なるコレクションを充実させることができた。
残された課題と今後の方向性	彫刻や工芸の分野における重要な作家や未収蔵作家の収集を継続しながら、若手・中堅の作家についても調査を進め、幅広く収集を行う。

※購入とは、道の取得基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

## 資料2

## 作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立函館美術館

項 目	1 道南の美術
計 画 内 容	従来から行ってきた、道南ゆかりの代表的作家の作品を中心とした収集を継続するとともに、未収蔵の作家や新進作家の優れた作品を収集する。 また、函館や道南地域の歴史・風土・人々等と関連する収集を機会を捉えて行う。
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	68点 (購入1点、受贈67点、管理換0点)
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度) ※作者名「作品名」(制作年)	小玉貞良「江差屏風」(1751～1764年)【購入】 蠣崎波響「京洛十二ヶ月図画卷」(1819年) 味戸ケイコ「岩瀬成子『夜くる鳥』挿画」(1997年) 瀬戸英樹「はさ架け風景」(1999年) 折原久左エ門「連作一祀跡一」(1984年)
主 な 成 果	研究者からの評価が高く、美術史的にも大変貴重な蠣崎波響の新出作品を受贈できたことにより、当館の波響コレクションに一層のまとまりが生まれたほか、江戸時代中期の宝暦年間頃に松前で活躍した小玉貞良が描いた「江差屏風」の購入により、道南の美術コレクションの大きな目玉となる作品を増やすことができた。
残された課題と今後の方向性	横山松三郎など、美術史上重要な位置を占め、継続して収集すべき代表的な作家や、未収蔵作家の中でも、道内で活躍した外山欽平といった現代の代表的作家の収集を実現できるよう、情報収集に努めていく。

項 目	2 現代美術
計 画 内 容	文字・記号と美術との関わりを新たな視点で捉え、表現様式において文字・記号と関わる優れた作品を、現代作家を中心に収集するとともに、近代以前の表現にも目を向けて、コレクションを充実させる。 また、現代美術の多様な動向と発展及び今日的な表現領域等を視野に置いた収集を機会を捉えて行う。
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	0点 (購入0点、受贈0点、管理換0点)
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度)	収集作品なし。
主 な 成 果	情報、作品とも入手に至らなかった。
残された課題と今後の方向性	文字・記号に関わる現代美術の作品は、市場に流通するものが主流であるため、情報収集に努めていく。

※購入とは、道の取得基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

## 資料 2

## 作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立函館美術館

項 目	3 書と東洋美術
計 画 内 容	鷗亭コレクションを中心とした書については、より体系的な観点から各分野の拡大を図る。 また、鷗亭コレクションを中心とした東洋美術については、既収蔵の作品を核として、そのさらなる充実につながるような収集を機会を捉えて行う。
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	32点 (購入0点、受贈32点、管理換0点)
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度)	中野北溟「津軽讃歌」(2008年) 「鳩笛」(2008年) 「原子修詩 原郷創造 北の大いなる島」(2009年) 松本暎子「とりなくこゑす」(制作年不詳) 千葉軒岳「白き志野鼠 樂黒き利休が選ぶ酒器二つ」(2015年)
主 な 成 果	北海道書道界の指導的存在で日本を代表する書家中野北溟や書壇形成に大きく貢献した千葉軒岳など、本道ゆかりのある書家の秀作を数多く収集することができ、当館の近代詩文書コレクションの充実を図ることができた。
残された課題と今後の方向性	体系的な収集の観点から、書の各分野のバランスに配慮し、量的質的に拡充すべき分野の作品収集を検討する。 また、金子鷗亭の初期の優品及び北海道の書家の秀作の充実を目指す。

※購入とは、道の取得基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

## 資料2

## 作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立帯広美術館

項 目	1 道東の美術
計 画 内 容	阿部貞夫、居串佳一、久本春雄など物故作家から現在活躍中の作家まで、道東地域の美術作品を地域的・時代的・分野的に幅広く収集する。
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	22点 (購入 1点、受贈 21点、管理換 0点)
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度) ※作者名「作品名」(制作年)	小笠原洋子「漂う船」(2003年)、池田良二「Afternoon at the ebb」(1992年)、池田緑「Silent Breath サホロの7ヶ月」(2002年)、富谷智「shell-shelter」(2001年)【購入】、景川弘道「知床岳と残氷」(不詳)
主 な 成 果	道東の美術については、企画展を契機にするなどして、十勝ゆかりの作家の作品を中心に収集するとともに、あわせてオホーツク管内の優れた作家の作品を収集し、広がりをもたせることができた。また彫刻作品1点を購入し、立体作品の充実を図った。
残された課題と今後の方向性	十勝ゆかりの未収蔵作家の作品も含め、広く道東4管内にわたる代表的な作家の作品の収集を継続し、コレクションの偏りを補完していくとともに、全体的にも充実を図る。

項 目	2 プリントアート
計 画 内 容	近現代の版画、ポスターなどのグラフィック・デザイン、写真、その他複製技術を用いた表現など、国内外にわたり各分野のプリントアート作品を収集する。
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	23点 (購入 0点、受贈 23点、管理換 0点)
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度) ※作者名「作品名」(制作年)	荒井善則「Traces of the Tape-Summer time」(1988年)、磯見輝夫「東の風」(1986年)、柄澤齊「果実」(1986年)、黒崎彰「失われた楽園2」(1972年)、李禹煥「カフェにて」(1998年)、ジョルジュ・ルオー「辻々に売春の灯がともる…」(1927年)
主 な 成 果	プリントアートについては、荒井善則氏が収集してきたコレクションを一括で寄贈いただき、国際的にも高い評価を得ている版画家たちの作品を収集することができた。
残された課題と今後の方向性	近年の新たなメディアを駆使したプリントアートも含め、国内外で活躍する作家の代表作の収集を推し進める。 ポスター作品においては、昭和期から現代までの北海道ゆかりの作家の作品の収集に重点を置きながら、コレクションの充実を図る。

※購入とは、道の取得基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

## 資料 2

## 作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立帯広美術館

項 目	3 西洋の美術
計 画 内 容	ルソー、ディアズ、ドービニーらバルビゾン派の油彩画をはじめ、田園風景や農村風俗を主題とした西洋の絵画・版画作品を収集する。
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	0点 (購入 0点、受贈 0点、管理換 0点)
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度) ※作者名「作品名」(制作年)	収集作品なし。
主 な 成 果	収集作品なし。
残された課題と今後の方向性	バルビゾン派の油彩画、水彩画、版画、またバルビゾンの風景や風俗をモチーフとした写真作品について、それぞれ系統的にまとまりのあるコレクションとなるよう考慮しつつ、質、量ともに拡充を推し進めていく必要がある。

※購入とは、道の取得基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

## 資料2

## 作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立釧路芸術館

項 目	1 映像芸術
計 画 内 容	写真及びその他の映像メディアによる優れた作品を系統的に収集する。写真については、日本現代写真を中心に、国内外の優れた作品を収集する。その他の映像メディアによる作品については、作品調査と収蔵・活用上の課題の整理を進め、収集を図る。
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	152 点 (購入 1点、受贈 151点、管理換 点)
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度) ※作者名「作品名」(制作年)	奈良原一高「無国籍地」(1954-56年)ほか149点 森山大道「北海道」(撮影年：1971-78年、プリント年：2023年) 【購入】 細江英公「大野一雄 釧路湿原に舞う『わたしのお母さん』」(1994年)
主 な 成 果	令和2年度に遺族より寄贈を受け、令和3年度に新収蔵品展「奈良原一高の写真」展を開催。令和5年度の購入作品により令和6年度に「森山大道「北海道」を中心に」を開催予定。日本の優れた現代写真を収集でき、コレクションに厚みが増した。
残された課題と今後の方向性	優れた現代写真のまとまった数の作品を収集し、コレクションが充実した。これらを核として、国際的な動向をふまえた作品調査と収集活動の継続が課題となる。

項 目	2 自然と芸術
計 画 内 容	自然をテーマやモチーフとする優れた作品を収集する。 自然の多様な表現を示す現代の作品を幅広く収集する。
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	0 点 (購入 0点、受贈 0点、管理換 0点)
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度) ※作者名「作品名」(制作年)	収集作品なし。
主 な 成 果	収集作品なし。
残された課題と今後の方向性	自然と芸術は、テーマが壮大であるため、北海道や日本といった地域に限定されず、広く海外にも視野を広げて作品調査を進め、優れたコレクションの収集に結びつけたい。

※購入とは、道の取得基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

資料 2

作品収集の成果と課題（各館の項目毎に作成）

館名：北海道立釧路芸術館

項 目	3 地域と芸術
計 画 内 容	釧路・根室地域にゆかりのある代表的な作家の作品を系統的に収集するとともに、その他地域に関連のある優れた作品を収集する。 未収蔵の作家、収蔵数の少ない作家等を中心に、多分野の優れた作品を収集する。
収 集 作 品 点 数 (令和元～5年度)	20 点 (購入 点、受贈 20 点、管理換 点)
主 な 収 集 作 品 (令和元～5年度 5点程度) ※作者名「作品名」(制作年)	池田良二「Circumstances (境涯)」(1988年) ほか10点 木島誠悟「絵本『キリンのあかちゃんが生まれた日』原画」(2019年) ほか1点 小林一雄「釧路川」(1969年) 中江紀洋「湿原の春」(2017年) 羽生輝「部屋のかたすみ」(1963年)
主 な 成 果	未収蔵の作家、および未収蔵の分野の作品を収集できたことでコレクションの幅が広がった。また、収蔵作家の新傾向の作品が加わり、コレクションに厚みが増した。
残された課題と今後の方向性	地域を代表する作家のコレクションがさらに充実したが、地域ゆかりの他作家や、未収蔵の分野についても引き続き調査を進め、より体系的なコレクションの形成を進めていきたい。

※購入とは、道の取得基金等で購入したもの、管理換とは道の他部局から管理換されたものとする。

## 資料 3

## 収蔵作品活用状況（令和元年度～令和5年度）

館名：北海道立近代美術館

## ア 所蔵品展

年度	収蔵品総数(A)	収蔵品展示・貸出数(B)	活用割合(B/A×100)
元	5,393	1,639	9.7%
2	5,660	884	15.6%
3	5,881	901	15.3%
4	5,908	896	15.1%
5	6,069	520	8.5%

(小数点第2位四捨五入)

## イ 移動美術展

年度	収蔵品展示数	観覧者数	会場名
元	38点	876	共和町立西村計雄記念美術館
	38点	548	木古内町中央公民館
2	38点	883	えりも町福祉センター
3	39点	300	天塩町社会福祉会館
	39点	583	置戸町中央公民館
4	35点	580	標茶町博物館ニタイ・ト
5			実施せず

※複数会場で実施した年度は、スペースを広げて会場毎に記載する。

## ウ オンラインアート教室

年度	収蔵品活用数	鑑賞した児童・生徒数	実施校数
4	9点	258名	6校
5	16点	135名	7校

※令和4年度から事業開始

※画像等デジタルデータ及びアートカードについては、作者・作品名などの情報を含めて紹介した場合に収蔵品活用数に計上

## エ 他美術館等への貸出（延べ数）

第4期期間中の貸出作品数	道内美術館数	道外美術館数	備考
63件	46(21)件	18件	
1,620点	1,369 (146)点	105点	

※道立美術館・釧路芸術館以外への貸出がある場合は、道内美術館数欄に（内数）を記載。

※国外美術館への貸出がある場合は、道外美術館数にカウントし、備考欄に美術館名（国名）を記載。

## 資料 3

## 収蔵作品活用状況（令和元年度～令和5年度）

館名：北海道立三岸好太郎美術館

## ア 所蔵品展

年度	収蔵品総数（A）	収蔵品展示・貸出数（B）	活用割合（B/A×100）
元	257【5】	280【5】	108.9%
2	257【5】	239【5】	93.0%
3	258【5】	256【5】	99.2%
4	258【5】	286【8】	110.9%
5	258【6】	303【12】	117.4%

（小数点第2位四捨五入）

## イ 移動美術展

年度	収蔵品展示数	観覧者数	会場名
元	2【0】	931 790	共和町西村計雄記念美術館 *道近美と共同 木古内町中央公民館 *道近美と共同
2	1【0】	883	えりも町福祉センター *道近美と共同
3	0【0】		実施なし
4	0【0】		出品なし（標茶町で開催）
5	0【0】		実施なし

※複数会場で実施した年度は、スペースを広げて会場毎に記載する。

## ウ オンラインアート教室

年度	収蔵品活用数	鑑賞した児童・生徒数	実施校数
4	13点	71名	1校
5	4点	10名	1校

※令和4年度から事業開始

※画像等デジタルデータ及びアートカードについては、作者・作品名などの情報を含めて紹介した場合に収蔵品活用数に計上

## エ 他美術館への貸出（延べ数）

第4期期間中の貸出作品数	道内美術館数	道外美術館数	備考
26件	18（12）件	8件	
155点【2点】	41点【0】点	114点【2点】	

※道立美術館・釧路芸術館以外への貸出がある場合は、道内美術館数欄に（内数）を記載。

※国外美術館への貸出がある場合は、道外美術館数にカウントし、備考欄に美術館名（国名）を記載。

※ア～エの【 】内は受託作品数（外数）

## 資料 3

## 収蔵作品活用状況（令和元年度～令和5年度）

館名：北海道立旭川美術館

## ア 所蔵品展

年度	収蔵品総数（A）	収蔵品展示・貸出数（B）	活用割合（B/A×100）
元	721	180	25.0%
2	727	152	20.9%
3	746	89	11.9%
4	757	139	18.4%
5	758	129	17.0%

（小数点第2位四捨五入）

## イ 移動美術展

年度	収蔵品展示数	観覧者数	会場名
元	0		
2	0		
3	0		
4	0		
5	10	1,408	剣淵町絵本の館

※複数会場で実施した年度は、スペースを広げて会場毎に記載する。

## ウ オンラインアート教室

年度	収蔵品活用数	鑑賞した児童・生徒数	実施校数
4	7点	67名	3校
5	4点	55名	2校

※令和4年度から事業開始

※画像等デジタルデータ及びアートカードについては、作者・作品名などの情報を含めて紹介した場合に収蔵品活用数に計上

## エ 他美術館への貸出（延べ数）

第4期期間中の貸出作品数	道内美術館数	道外美術館数	備考
7件	7（2）件	0件	
32点	32（9）点	0点	

※道立美術館・釧路芸術館以外への貸出がある場合は、道内美術館数欄に（内数）を記載。

※国外美術館への貸出がある場合は、道外美術館数にカウントし、備考欄に美術館名（国名）を記載。

## 資料 3

## 収蔵作品活用状況（令和元年度～令和5年度）

館名：北海道立函館美術館

## ア 所蔵品展

年度	収蔵品総数（A）	収蔵品展示・貸出数（B）	活用割合（B/A×100）
元	1,903【402】	243【218】	12.8%
2	1,935【402】	251【46】	13.0%
3	1,948【402】	138【23】	7.1%
4	1,972【402】	310【34】	15.7%
5	1,976【402】	384【32】	19.4%

（小数点第2位四捨五入）

## イ 移動美術展

年度	収蔵品展示数	観覧者数	会場名
元			
2			
3			
4			
5			

※複数会場で実施した年度は、スペースを広げて会場毎に記載する。

## ウ オンラインアート教室

年度	収蔵品活用数	鑑賞した児童・生徒数	実施校数
5	35点	54名	6校

※令和5年度から事業開始

※画像等デジタルデータ及びアートカードについては、作者・作品名などの情報を含めて紹介した場合に収蔵品活用数に計上

## エ 他美術館への貸出（延べ数）

第4期期間中の貸出作品数	道内美術館数	道外美術館数	備考
6（2）件 51【27】点	4（2）件 42（27）点 【3（17）】点	2（0）件 9【7】点	

※道立美術館・釧路芸術館以外への貸出がある場合は、道内美術館数欄に（内数）を記載。

※国外美術館への貸出がある場合は、道外美術館数にカウントし、備考欄に美術館名（国名）を記載。

※ア～エの【 】内は受託作品数（外数）

## 資料 3

## 収蔵作品活用状況（令和元年度～令和5年度）

館名：北海道立帯広美術館

## ア 所蔵品展

年度	収蔵品総数（A）	収蔵品展示・貸出数（B）	活用割合（B/A×100）
元	808	58	12.6%
2	825	94	11.5%
3	849	44	7.2%
4	849	131	15.4%
5	853	88	14.0%

（小数点第2位四捨五入）

## イ 移動美術展

年度	収蔵品展示数	観覧者数	会場名
元			
2			
3			
4			
5			

※複数会場で実施した年度は、スペースを広げて会場毎に記載する。

## ウ オンラインアート教室

年度	収蔵品活用数	鑑賞した児童・生徒数	実施校数
4	30点	209名	3校
5	20点	52名	2校

※令和4年度から事業開始

※画像等デジタルデータ及びアートカードについては、作者・作品名などの情報を含めて紹介した場合に収蔵品活用数に計上

## エ 他美術館への貸出（延べ数）

第4期期間中の貸出作品数	道内美術館数	道外美術館数	備考
9件	9（2）件	0件	
94点	94（46）点	0点	

※道立美術館・釧路芸術館以外への貸出がある場合は、道内美術館数欄に（内数）を記載。

※国外美術館への貸出がある場合は、道外美術館数にカウントし、備考欄に美術館名（国名）を記載。

## 資料 3

## 収蔵作品活用状況（令和元年度～令和5年度）

館名：北海道立釧路芸術館

## ア 所蔵品展

年度	収蔵品総数（A）	収蔵品展示・貸出数（B）	活用割合（B/A×100）
元	166	58・3	36.7%
2	315	74・100	55.2%
3	317	135・58	61.0%
4	324	120・0	37.0%
5	328	220・4	68.2%

（小数点第2位四捨五入）

## イ 移動美術展

年度	収蔵品展示数	観覧者数	会場名
元			
2			
3			
4			
5			

※複数会場で実施した年度は、スペースを広げて会場毎に記載する。

## ウ オンラインアート教室

年度	収蔵品活用数	鑑賞した児童・生徒数	実施校数
5	15点	112名	4校

※令和5年度から事業開始

※画像等デジタルデータ及びアートカードについては、作者・作品名などの情報を含めて紹介した場合に収蔵品活用数に計上

## エ 他美術館への貸出（延べ数）

第4期期間中の貸出作品数	道内美術館数	道外美術館数	備考
8 件 165 点	8（2）件 165 （129）点	件 点	

※道立美術館・釧路芸術館以外への貸出がある場合は、道内美術館数欄に（内数）を記載。

※国外美術館への貸出がある場合は、道外美術館数にカウントし、備考欄に美術館名（国名）を記載。

## 作品活用の成果と課題

館名：北海道立近代美術館

項 目	
所 蔵 品 展 の 開 催	展示室Aにおいて、様々なテーマ設定による「近美コレクション」展を開催。令和に入ってから、年3回程度の展示替えを行い、同時開催を含め各年約10本の企画展により、毎年400点前後の所蔵作品を展示した。特に令和2年の新型コロナウイルスの流行による特別展(エジプト展、札幌国際芸術祭2020)の中止に際しては、近美コレクションの出品作品数と展示面積等の拡大、さらに会期の延長により、収蔵品を活用して美術鑑賞の機会を設けた。また、第3期(平成30年度)から継続してきた友田コレクションの調査と受贈を今期(令和4年度)に完了し、それらの作品を令和5年度に展示した。
移 動 美 術 展 及 び オンラインアート教室 (出張アート教室含 む)の開催	「移動美術館」は、令和元年度から4年度まで毎年道内1~2会場で実施。当館への来館が難しい遠隔地の住民に収蔵作品鑑賞の機会を提供した。また、平成24年度から継続してきた「出張アート教室」は、令和3年度まで日高や空知地方などの小・中・養護学校で毎年3程度で実施。コロナ禍を経て、令和4・5年度は「オンラインアート教室」として各年小・中・高・特別支援学校等8~9校の児童生徒を対象に、様々な収蔵品を用いて鑑賞教室を実施した。
館外への作品貸出し (館外での所蔵品展 含む)	道内外の美術館等より毎年10件前後の作品借用依頼があり、企画内容の意義、展示される環境、当館での使用予定などを検討の上、可能な限り貸出している。令和元~5年度の延べ貸出作品点数は1,620点、延べ貸出美術館数は63件(道内46件、道外18件)であった。
他 館 と の 連 携 (道立館・他公立 館やアートギャラ リー北海道含む)	「アートギャラリー北海道」では、令和元年度にフランク・シャーマンコレクション(伊達市)、2年度にディマシオ・コレクション(新冠町)、3年度に道銀芸術文化奨励賞受賞作家(札幌市)、4年度に中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館(旭川市)、5年度に小川原脩記念美術館(倶知安町)のコレクションを紹介。令和4年度には同事業として北網圏北見文化センターに所蔵品を貸し出した。この他、令和5年9月から令和6年3月までの予定で、釧路芸術館に中原悌二郎の彫刻1点を長期貸し出した。
作 品 情 報 の 提 供 (データの活用や収 蔵作品データベース、 リモートミュージアム 含む)	ポスターやチラシ、SNS等を活用しコレクションの紹介に取り組んだ。またコロナ禍を機に、令和2年度から展覧会や美術館活動を学芸員が紹介する動画配信「北海道リモート・ミュージアム」を制作開始。令和3年度のホームページリニューアルの際には、所蔵作品データベースを公開し、その後も随時更新することで正確な情報提供を行っている。さらに、令和5年度には「ポケット学芸員」による野外彫刻作品等の音声付き解説を制作した。
残 され た 課 題 と 今 後 の 方 向 性	コロナ禍を経て普及したオンライン鑑賞は、様々な事情で美術館に来られない人へのサービスや情報提供、さらに美術ファンの裾野を広げるきっかけをつくる等の面で有効である。今後はこうしたオンラインの利点を活用しつつも、実作品の鑑賞でしか得られない感動や楽しさがあることを伝えるため、「ウィズ・キッズ」などの事業を通じて他の教育機関等とも連携し、鑑賞機会が増えるよう働きかけを行う。また、リニューアル後に「目指す姿」の実現に向けた、作品の様々な活用を検討する。

## 作品活用の成果と課題

館名：三岸好太郎美術館

項 目	
所 蔵 品 展 の 開 催	毎回視点を变えて多様な角度から三岸作品を紹介する所蔵品展を延べ20回(2019-2023)開催。主な企画として「三岸好太郎と幻想のイメージ」(2019)、「子どもと楽しむミマ(mima)」(2020)、「色彩と衝動」(2021)、「蝶を追いかけて」(2022)、「おぼけのマールとたからもの」(2023)など。また特別展(計5回)においても三岸好太郎の作品を中心に構成、展示した。
移 動 美 術 展 及 び オンラインアート教室 (出張アート教室含む)の開催	近代美術館との共催による「移動美術館」事業では、2019年度、2020年度の計2回(3会場)で3点の三岸作品を出品した。「オンラインアート教室」では、2021年度に1校7点(自主実施、北海道教育大学附属釧路中学校)、2022年度に1校13点(北海道札幌西高等学校)、2023年度の1校4点(余市養護学校)を活用した。
館外への作品貸出し (館外での所蔵品展含む)	延べ貸出点数：155点(ほかに寄託作品2点)。 主な貸出先：府中市美術館、ひろしま美術館、パナソニックミュージアム(以上道外)、知事室、ミギシ・サテライト、国立アイヌ民族博物館、北海道立文学館、北海道立近代美術館、北海道立函館美術館、北海道立旭川美術館、北海道立帯広美術館、北海道立釧路芸術館。特に「貝殻旅行」展では、一宮市三岸節子記念美術館、砺波市美術館、神戸市立小磯記念美術館という3館への巡回展示となり、好太郎芸術の鑑賞機会を高めた。
他 館 と の 連 携 (道立館・他公立 館やアートギャラ リー北海道含む)	特別展「貝殻旅行」展では、連携協定を結んでいる一宮市三岸節子記念美術館との共同企画により、三岸作品の鑑賞機会を高めることが出来た。また、道立美術館、芸術館、文学館という道立各館全てに作品を貸し出すとともに、当館を舞台とする絵本『おぼけのマールとちいさなびじゅつかん』とのかかわりから、国立アイヌ民族博物館というこれまでにない博物館への貸出実績が生まれた。
作 品 情 報 の 提 供 (データの活用や収 蔵作品データベース、 リモートミュージアム含む)	美術館刊行物(年間カレンダー、mima News)、展覧会チラシ、特別展ポスター、展覧会図録(『貝殻旅行』展)に所蔵作品の図版を掲載して各方面に配布するほか、新聞・雑誌・放送等のマスメディアや地域情報誌、書籍などに作品情報の提供を行い、毎年10数件から20数件、さまざまな媒体に所蔵作品の図版や画像が掲載された。また、三岸好太郎に関する調査・研究者等にも照会に応じ、作品情報等の提供を行い、当館における調査研究の蓄積の成果を広く社会に還元している。美術館のホームページにおいては、ほぼ全所蔵作品の基本情報を掲載し内主要54作品の画像、作品解説を公開している。
残 され た 課 題 と 今 後 の 方 向 性	多様な観点からのテーマ設定による所蔵品展を開催しているが、まとまった点数の貸出しや、特定の代表作の貸出しの要望には、対応に困難が生じることがある。そのため、来館者の期待に応える館内展示の充実と、館外展による三岸作品の鑑賞機会の増大の意義とのバランスに配慮しながら、作品の活用を考えていく必要がある。なお、館内外での作品活用及び鑑賞機会を高め、作品保存の観点からも、更に十分な量と質の所蔵品確保が望まれる。作品情報の効果的な提供については、所蔵品図録の作成頒布、館のホームページやインターネット上での所蔵品検索と作品画像の公開点数を増加させることが検討課題である。

## 作品活用の成果と課題

館名：北海道立旭川美術館

項 目	
所蔵品展の開催	「木の造形」、「道北の美術」、分野を横断したテーマなどによる収藏品展、及び収藏品を中心とした展覧会を、延べ24回開催した。主な収藏品展は「七彩の美 旭川ゆかりの画家たち」(令和元年度)、「没後30年 砂澤ビッキ展」(令和元年度)、「『木』と『あそび』美術館」(令和2年度)、「荒井善則展」(令和2年度)、「旭川の美術100年」(令和4年度)、「蔵出し!木彫の味わい」(令和5年度)、「遠藤享展」(令和5年度)である。
移動美術展及びオンラインアート教室(出張アート教室含む)の開催	「移動美術館」の開催は無かったが、アートギャラリー北海道事業に関わり、令和5年度、剣淵町絵本の館との共催により収蔵作品の館外展示を実施した。「出張アート教室」は令和元年度から令和3年度に各1校、計3校で収蔵作品を活用した授業を実施した。「オンラインアート教室」は令和4年度に3校、令和5年度は2校、計5校で収蔵作品を活用した授業を実施した。
館外への作品貸出し(館外での所蔵品展含む)	延べ貸出点数32点、件数7件(道内7件、道外0件)である。貸出先は札幌芸術の森美術館、本郷新記念札幌彫刻美術館、釧路市立美術館、北海道立釧路芸術館、北海道立近代美術館、神田日勝記念美術館、市内ギャラリーである。
他館との連携(道立館・他公立館やアートギャラリー北海道含む)	広く美術館相互の作品貸借を行っている。今期は、いずれも札幌で開催された砂澤ビッキの展覧会2件に計17点、舟越桂展に3点、釧路と札幌で巡回開催された羽生輝展に計2点、釧路で開催された上野憲男展に8点、当館と鹿追で協働開催された「神田一明、日勝展」に2点を貸し出した。北海道ゆかり、また国内現代彫刻界で重要な作家の展覧会が道内で相次いで企画、開催されたのを機に、当館の「木の造形」と「道北の美術」を主とした北海道の美術のコレクションを広く紹介する機会になった。
作品情報の提供(データの活用や収蔵作品データベース、リモートミュージアム含む)	前年度に引き続き、令和元年度から令和4年度についても『年報』と『館報(氷華)』のデータをホームページ上に掲載し、閲覧者によるダウンロードを可能にしたほか、館内の閲覧コーナーにも設置し、来館者の利用に供した。館外からの収蔵作品のデータに関する照会や、借用打診等の希望にも対応し、広く情報の提供に取り組んでいる。
残された課題と今後の方向性	「木の造形」のうち重量や体積が大きな彫刻については、保存状態を考慮することはもちろんのこと、保管状況と連動させながら展示、貸出を計画する必要がある。工芸については、美的価値に加えて実用的価値にも触れてもらうため、作品の安全性を確保しながら、一般来館者の理解に資するための教育普及事業や、若手作家、研究者の活動に資するための特別観覧など、より多様な活用方法を検討する必要がある。インターネットやSNSを通じては、展覧会等の事業の情報を発信しているが、自主的にソースを選んでアクセスする対象者が受け手の中心となるため、幅広い層への情報発信のためには、従来行ってきた図録や館報などの紙媒体、出版物による記録と情報提供も重要な方策であり、積極的な予算確保に努める必要がある。また、作品情報の活用、提供を進めるため、収蔵作品の画像のデジタル化も継続して取り組む必要がある。

## 作品活用の成果と課題

館名：北海道立函館美術館

項 目	
所 蔵 品 展 の 開 催	金子鷗亭の書を中心とした常設展の展示替を延べ15回、新たに収蔵された作品を中心とした新収蔵品展や当館コレクションの現代アートや道南ゆかりの美術をテーマとした展覧会を延べ7回開催した。 このほか、広く道民に鑑賞の機会を提供するため、展覧会ごとにポスターやチラシを作成し、協力企業や町内会へ配付するなど、広報体制の強化にも力を入れている。
移 動 美 術 展 及 び オンラインアート教室 (出張アート教室含む)の開催	地域の自治体と連携した「移動美術展」は、新型コロナウイルス感染症の影響や自治体の財政事情などから、展示の機会が得られなかった。 このほか、「出張アート教室」は、令和元年度から3年度まで各1校、計3校、「オンラインアート教室」は、令和5年度に広域の学校を含む計6校に対し、当館収蔵作品を見てもらいながら、鑑賞の手ほどきを行った。
館外への作品貸出し (館外での所蔵品展含む)	新型コロナウイルス感染症の影響などにより、前計画期と比べ、館外への貸出数は減少したものの、道内外の美術館等6館に対し、所蔵作品51点、受託作品27点を貸し出した。 主な貸出先は、道立釧路芸術館や網走市立美術館などである。
他 館 と の 連 携 (道立館・他公私立 館やアートギャラ リー北海道含む)	他館所蔵作品を活用した企画展では、「世界の名作絵本原画がやってきた」(令和元年度・剣淵町絵本の館)、「《道産子追憶之巻》と日本画の名品」(令和2年度・近代美術館)、「西洋版画の魅力」(令和3年度・近代美術館、荒井記念美術館)を開催し、他館との連携強化を図っている。 このほか、アートギャラリー北海道の連携施設と協力し、連携施設相互の特別優待割引を実施しているほか、道南地域連携施設と協力し「どうなんアートリンク・スタンプラリー」を開催し、美術館利用の促進に向けた取組を行っている。
作 品 情 報 の 提 供 (データの活用や収 蔵作品データベー ス、リモートミュ ージウム含む)	美術館刊行物の発行や新聞、出版、テレビ、ラジオ等での掲載・放送出演依頼に応じているほか、当館ホームページの多言語化に加え、Facebook、X(旧twitter)といったソーシャルメディアを介して、より多くの人々に情報発信を行っている。 また、北海道立美術館ポータルサイトにおいて、当館の所蔵作品データベースの公開を行っている。
残 され た 課 題 と 今 後 の 方 向 性	道南地域では美術館以外にも博物館や寺社などで文化財を所蔵・展示しているケースが多く、今後もこうした施設との連携が重要となるため、当館のコレクションの一層の活用促進につながるよう連携強化に努める。 また、展示室や当館で行うワークショップ以外の場所でのコレクションの柔軟な活用についても、「道南版アート・カード」や「オンラインアート教室」の認知度を高め、より多くの学校現場で活用される機会を創出できるよう努めていく必要がある。

## 作品活用の成果と課題

館名：北海道立帯広美術館

項 目	
所 蔵 品 展 の 開 催	常設展示室（「コレクション・ギャラリー」）において延べ20回の収蔵品展、主展示室において延べ5回の収蔵品と関連したテーマ展を開催した。 主な収蔵品展は「パリを彩る」（令和元年、コレクション・ギャラリー）、「バルビゾンの風景／十勝の風景」（令和3年、コレクション・ギャラリー）ほか、所蔵品中心のテーマ展は「アートの翼広げて」（令和2年、主展示室）、「アートの中の風景」（令和4年、主展示室）、「丘の上のミュージアム」（令和5年、主展示室）ほかである。
移 動 美 術 展 及 び オンラインアート教室 （出張アート教室含む）の開催	「移動美術展」は開催していないが 所蔵品活用と学校連携を目的とした、所蔵品を使つての授業「出張アート教室」を令和元年（1校）、令和2年（1校）、令和3年（1校）開催した。令和4年度から、出張アート教室に替わって美術館と学校をオンラインでつなぎ、遠隔地の児童・生徒に対する鑑賞機会を提供する「道立美術館オンラインアート教室」を開始、令和4年（4校）、令和5年（4校）開催。また、帯広美術館ではこれと並行して、学校以外の社会教育機関なども対象に含めた独自の「帯広美術館オンラインアート教室」を開始し、令和4年（5件）、令和5年（5件）開催した。
館外への作品貸出し （館外での所蔵品展含む）	延べ貸出作品数は94点、延べ貸出館数は9館（道内9館）である。 主な貸出先は、北海道立近代美術館、北海道立釧路芸術館、北海道立旭川美術館、神田日勝記念美術館、帯広百年記念館などである。
他 館 と の 連 携 （道立館・他公立 館やアートギャ ラリー北海道含む）	網走市立美術館所蔵品による企画展「居串佳一とオホーツクの画家たち」（令和元年）、北網圏北見文化センター所蔵品による企画展「香川軍男・景川弘道と北見の美術」（令和4年）を開催した。また当館および北海道立釧路芸術館・釧路市立美術館の3館のコレクションによる連携企画展「アートの翼広げて」（令和2年、主展示室）を開催した。 出品協力は、北網圏北見文化センターから「版画って何だ！？－木版からコピー機まで－」（令和元年）、北海道立釧路芸術館から「Botanical Kingdom 花と樹の王国」（令和2年）、近代美術館から「トリック×イリュージョン！」（令和5年）などである。
作 品 情 報 の 提 供 （データの活用や収 蔵作品データベー ス、リモートミュ ージアム含む）	所蔵品図録（「北海道立帯広美術館所蔵品図録2021（増補版）」令和3年）を発行した。各年度の収集作品は、「年報」に掲載し、道内外の美術館、教育機関等に送付し周知を図っている。 また、館内に「情報コーナー」を設け、所蔵品などの情報を提供しているほか、ホームページに所蔵品データベースを公開し広く周知を図っている。画像の提供については、利用者の申し出により随時対応している。
残 され た 課 題 と 今 後 の 方 向 性	所蔵品について、所蔵品展等において新たな魅力を紹介すべく、関連する資料などを交え、調査研究を深めていく。 所蔵品データベースの周知、活用を促すため、各報道機関で所蔵品の魅力をアピールしていく。また、動画の活用や関連するホームページとの連携を進め、インターネット上における所蔵品の多角的な楽しみ方を提供する。

## 作品活用の成果と課題

館名：北海道立釧路芸術館

項 目	
所 蔵 品 展 の 開 催	R1～4年度は、日本の現代美術、旅、水、音などの主題で所蔵品の特徴を生かしたコレクション展を開催。R5年度は開館25周年を総括する記念展を開催。また、フリーートルームの活用や、展示室の一部を区切るなどして、常設展に代わる小企画展示を観覧無料で公開するなど、常設展示室が無いゆえに所蔵品の活用機会が少ないという課題を具体的に解決する工夫を行った。
移 動 美 術 館 及 び オンラインアート教室 (出張アート教室含む)の開催	移動美術展はこの間実施がなかった。 出張アート教室は、R1年度1件、油彩1点(紋別市、17名)、R2年度1件、油彩1点(北見市、50名)、R3年度1件、油彩3点(中標津町、45名)、R4年度1件、油彩・写真各1点(遠軽町、52名)、オンラインアート教室は、R5年度4件(利尻富士町、札幌市、遠軽町、中札内村、計112名)実施した。出前講座は、R2年度1件(根室市、15名)、R3年度1件(白糠町、11名)実施した。
館外への作品貸出し (館外での所蔵品展含む)	8件165点の貸出を行った(貸出点数は組作品を個別に数える方法で算出)。道立館(旭美、帯美、近美)への貸出は6件、ほかはR2年度に北網圏北見文化センターに写真作品79点、R3年度に網走市立美術館に絵画、版画、写真作品計50点、2件合計129点を貸出し、とくに写真作品の活用が目立った。
他 館 と の 連 携 (道立館・他公立 館やアートギャラ リー北海道含む)	R2年度、北網圏北見文化センターは「自然をみつめる ー79枚の写真からー」展を開催。R3年度、網走市立美術館は「北海道立釧路芸術館所蔵 釧根の三人展」を開催。同年度、当館と近代美術館は「日本画家 羽生輝 悠久の岬を望む」を開催。R4年度、当館は近代美術館との連携により「ヨーロッパ版画の花束」展、厚岸町との連携により「厚岸・国泰寺の200年」展を開催した。上記いずれも、アートギャラリー北海道による連携展。
作 品 情 報 の 提 供 (データの活用や収 蔵作品データベ ース、リモートミュ ージアム含む)	R4年3月～北海道デジタルミュージアムの作品情報公開：28件。北海道立美術館・芸術館所蔵品データベース公開：918件(2024/7現在)。北海道リモート・ミュージアムのコンテンツ数：19件(2024/7現在)。SNS(Instagram、フェイスブック、X(ツイッター)等)による展覧会や関連事業等の広報・ニュース配信は随時更新。各展覧会のチラシ・ポスター・出品目録等の配布、閲覧コーナー開設、外部からの作品画像使用希望への対応など。
残 され た 課 題 と 今 後 の 方 向 性	R2年度収蔵時に「写真」の組作品を個別に数える方法を採用したため作品総数が倍増し、第3期と比べ第4期の収蔵品展示・貸出数が全体的に増加したのに活用割合が低下するという結果になった。 R5年度までの収集によって充実した「写真」コレクションをより一層活用し、その価値を広く周知するため、国立美術館連携事業などの取り組みを利用し、写真史上の重要作品と当館所蔵品を結びつける独自企画を実施するなど、多様な活用方法を追求する。並びに、出前講座など独自の教育活動もオンライン化を検討し、より広範な地域や利用者層に対して継続的な情報発信と学習機会の提供を行う。